

令和6年度

第6回 臨床研究審査委員会 議事概要		
日時	令和6年9月20日(金) 16:45~17:25 (40分)	
出席者 ※敬称略	委員長	高橋(腎臓内科)
	委員	小木曾(消化器内科)、神田(小児科)、棚橋(外科)、梅田(薬剤)、 葛谷(看護)、宇山(政策)、榊間(財務)、中島(医事)、 安藤(院外)、後藤(院外)、林(院外) (出席者12名/13名)
議題	1 臨床研究の実施・継続の適否について 2 病院長への許可申請・報告事項について	
議事内容		
1 臨床研究の実施・継続の適否について 別紙参照		
2 病院長への許可申請・報告事項について 別紙参照		
記録者：治験・臨床研究管理センター 田中 和秀		
次回	令和6年10月18日(金) 16時30分開始 第3会議室 (予定)	

議題

1) 新規申請 (7 件)

既存の試料・情報のみを用いる観察研究

①ロボット支援腹腔鏡下胃癌手術における治療成績に関する研究

外科 棚橋 利行

結果、承認する

(委員)ロボット支援腹腔鏡下胃癌手術における治療成績に関する研究について棚橋先生からお願いします。

(研究責任者)2018年4月にロボット支援腹腔鏡下胃癌手術が保険適応になり、当院では2019年5月よりロボット支援腹腔鏡下胃癌手術を導入して、7月までに70例おこないました。その治療成績について後方視的に調べたいということで、学会発表用に研究計画書を作成して、オプアウト等も作成いたしました。ご審議お願いします。

(委員)ありがとうございます。単施設で後方視的に既存の資料を用いて行う観察研究で、オプアウト等も出していただいております。この研究につきまして何かご意見ございますでしょうか。

(委員)このロボットっていうのは、一般的にはダ・ヴィンチというものですか。

(研究責任者)そうです。

(委員)成功率が99.5%以上ですが、操作上はつけてやるとかなり難しいんですか。

(研究責任者)胃がんの手術ですと、従来だと回復手術で、バサッとみぞおちからへその下までバサッとされてて、今もやってますけど、それが20年ぐらい前から、腹腔鏡手術っていう、ちっちゃな穴をいくつか開けて、お腹は二酸化炭素で膨らませて、テレビの画面を見ながら、ちっちゃな穴から手術器具を入れて操作するっていう手術が、このロボット手術はその機械をロボット、ロボットが手術するわけじゃなくて、人みたいなことをやるわけじゃなくて、腕が4本あってその腕でロボットがカメラを持って、なおかつ関節のある鉗子っていう切る道具を持っていただいて、離れたところで、術者がこちらが操作をするっていう手術があって、腹腔鏡手術に比べると、慣れればあのロボットの方が圧倒的にやりやすい。というのは腹腔鏡手術だと、術者と助手、あとカメラを持つ人の3人が必要なんですけど、このカメラはどうしても手で持つので、ぶれる。ロボットが持つと全く動かないので、カメラを自分で動かさない限り動かないので、安定した画面で見れる。あとはサージコンソールっていう、コックピットみたいなところで覗きながら見て操作するんですけど、それを3Dで見えるので、より細かい操作が腹腔鏡手術よりロボットの手術では可能だといわれている。

(委員)ありがとうございました。

(委員)他、ご質問等はよろしいですか。反対の方は挙手をお願いいたします。この研究は承認とします。

②中央放射線部における患者満足度調査

中央放射線部 小林 修治

結果、承認する

(委員)中央放射線部における患者満足度調査について、研究の概要について説明おねがいします。

(研究責任者)中央放射線の小林です。中央放射線部における患者満足度調査を行いたいと思います。一番後ろにあるアンケートを既に行っています。2週間後の第39回岐阜県病院協会医学会で発表をおこなうためにこちらでの承認を得たく思います。研究の背景といたしまして、当院では「患者さんの声」という投書箱を設置し、患者さんの要望・苦情等を抽出している。また当科では、10年程前から「患者及び職員等の声報告書」という独自の取り組みをおこなっている。これは、患者さんやスタッフから要望・苦情等があった際、スタッフ自らが自主的にその内容を拾い上げ、記載する報告書であります。当初は年間30件程提出されていた報告書が、近年では年間10件に満たない程に減少してきた。内容に関しても感謝や好評が多く、要望・苦情等のマイナス報告は減少している。しかし病院には苦情が寄せられ、放射線科に対して不満を感じている患者さんがみえない訳ではない。そこで我々が気付いていない患者さんの意見をより多く抽出するためにアンケートを実施した。研究の目的として、中央放射線部における患者満足度の向上、そして意義は、スタッフの意識を向上させることで、接遇向上にもつながると考えております。既にアンケートを行っておりますので承認が得られ次第、統計を行いたいと思っております。8番に飛びまして、インフォームドコンセントを受ける手続きはオプトアウトを利用し、ホームページに掲載して参加したくないという患者さんの場合は除外します。

(委員)既に得ているアンケートを集計する研究ですが、この研究につきましてご意見ご質問いかがでしょうか。ちょっと気になったところは、これは無記名なのでどのように撤回するのでしょうか。ただ、一番下にデータとして使用します。ご了承ください。つて書いてあるので、得た時点である程度の担保は取れてるとは思います。一つだけ、その回答があつて、特定できる場合は除外するつていう形に対応せざるを得ないかなとおもいます。

(研究責任者)そのような形で行います。

(委員)何かご意見等よろしいです。この件に関して反対の方挙手をお願いします。こちら承認とさせていただきます。

③発達特性を有する小児がん患者への多職種による心理発達支援

小児科 湊口 碧

結果、承認する

(委員)発達特性を有する小児がん患者への多職種による心理発達支援について湊口さんお願いいたします。

(研究責任者)お願いします。小児科臨床心理士の湊口と申します。研究名称は、発達特性を有する小児がん患者への多職種による心理発達支援というテーマで研究させていただきたいと思います。研究の背景といたしましては、近年、自閉スペクトラム症などの発達特性を有する児の増加が指摘されているが、実際に小児科に入院される小児がん患者さんの中にも、このような特性を有する患者も一定数いらっしゃるということを感じます。発達特性を有する小児がん患者に関する具体的な課題や支援方法についての報告は現状少ないというところがある。発達特性を有する患者さんは、変化への敏感さや感情コントロールの苦手さを持っている。小児がん患者は長期入院を余儀なくされるため、制限やストレスの多い環境下においては、通常の患者さん以上に発達特性を有する患者さんが入院生活への適応が困難となることが多い。このような患者は今後も増えていくことが予想されるため、小児がん領域においても、発達特性についての視点も踏まえて、支援を強化していくことが必須となってくると考えました。本研究の目的としては、発達特性のある患者の診療記録を用いて、患者が直面した困難さやそれに対する介入方法について振り返り、効果的な支援方法を明らかにすることを目的として本研究に取り組むこととしました。

(委員)単施設で、既存の情報を用いて行う観察研究ですが、ご質問等いかがでしょうか。

(委員)発達特性を持っているということ、その患者自身は知っているというか、どっから認定されているんですか。

(研究責任者)既に入院時点で発達障害の診断がついているお子さん、あとは診断がついていなくても何らかの支援を受けている患者さんが対象となります。

(委員)対象になることは、こちらはわかりますが、患者さん自身の方が、自分がそういう認定を受けるとか、あるいはそういう対象であることがわかっているか。要するに最後のオプトアウトに辞退する場合は、云々とあるが、当然私がお客であるということをご本人さんが理解してくれているかどうか。患者に発達障害の何か認定が出てると診断が出ているということでご理解されておれば、私がお客の該当だということになるので、参加しないということではできるとは思いますが。

(研究分担者)入院後に診断するというわけではなく、白血病の診断がつく前に、既に精神面での症状についているお子さんと、診断名については、希望されなければ診断名としてはつけないこともあるので、診断名として持っていなくても何らかのサポートを受けている子達なので、受けているという認識はある。

(委員)なるほど、わかっているんですね。

(委員)他、ご意見等いかがでしょうか。この議員に関して反対の方は挙手をお願いします。承認とします。

④JCOG1907A2:cT1-4aN0-3胃癌におけるロボット支援下胃切除術と腹腔鏡下胃切除術の術後PROの比較に関する観察研究

外科

奥村 直樹

結果、承認する

(委員)胃癌におけるロボット支援下胃切除術と腹腔鏡下胃切除術の術後PROの比較に関する観察研究について、代わりに棚橋先生からお願いします。

(研究分担者)JCOG胃がんグループに我々属しておりますので、それで今もう走っている臨床試験に当院でも参加したいということを出ささせていただきました。半年ぐらい前にこのJCOG1907という本体試験は、この臨床試験でも説明させていただいて同意をいただいているんですけど、これは胃がんに対して、先ほども言いましたけど腹腔鏡手術をやるのかロボット手術をやるのかっていう試験、どちらが、合併症が少ないのかっていう試験になります。この試験の付随研究で、患者さんにアンケートみたいな術後PROというんですけど、これも別紙がありますけど、胃がんに対していろんな手術をすることで、いろんなQOLが悪くなったりとか、いろんな気分的なもんだとか、生活の状況とかが変わることがありますので、それに対しての調査を患者に同意をいただいて、進めて飾り、導入いただいてQOLの調査をする研究です。既にJCOGでは、この試験は走っておりまして、症例集積中になります。

(委員)施設追加で当院も参加する研究。既に結果の通知もがんセンターのものがついてますけれども、この研究につきまして、何かご質問等ありますでしょうか。

(委員)研究申請書の研究責任者ですけど、奥村先生の名前が書いてあるんですが、36ページを見る限り、奥村先生ってのは、岐阜大学の医学部ということで、岐阜市民病院の場合は研究責任者が山田先生になっているんですが、これは問題ないですか。

(研究分担者)これは、この臨床試験が始まったときのプロトコル、この表の最初に10.9の参加施設の場合、2022年11月現在ってなってますので、今はちょっと変わってて、バージョンが変わってないんですけど、プロトコルのバージョンはまだ変わってないんですけど、奥村先生は今年の1月に当院に来たので、今は当院の研究代表者は奥村先生に変わっています。大学の研究責任者は、別の教授です。

(委員)そうですか。はい、問題なければ結構です。

(委員)他ご意見よろしいでしょうか。この研究に反対の方は挙手をお願いします。承認とします。

⑤血液腫瘍性疾患に罹患し、化学療法を受けた学童期の子どもをもつ家族が退院早期に抱く不安や困難さと支援の実際

岐阜県立看護大学 服部 佐知子

結果、承認する

(委員)血液腫瘍性疾患に罹患し、化学療法を受けた学童期の子どもをもつ家族が退院早期に抱く不安や困難さと支援の実際について、服部さん研究の概要をご説明をお願いします。

(研究責任者)研究計画書の背景のところに書いてありますが、岐阜市民病院のスタッフの方といろいろとお話する中で、血液腫瘍性疾患で移植を受けたお子さんは、移植後長期フォローアップ外来がありまして、そこでは病棟看護師が相談を受けられるので、退院した副作用とか学校生活の様子などを把握しやすいのですが、血液腫瘍性疾患で抗がん剤治療を受けて退院となったお子さんの場合は、退院前に退院指導は行われているのですが、病院看護師は退院後の様子がわからず退院指導が役立っているのか評価ができていないというような現状がありました。そこで、血液腫瘍性疾患に罹患して、化学療法を受けた学童期の子をもつ家族が退院後早期に不安や困難感を明らかにすることは、これまで看護師が行ってきた退院支援の実際を振り返る機会となり、現在の退院支援の課題が明確にあると同時に、看護師自身も子供や家族が退院後、家庭や地域でどのような生活を送っているのか、何が起きているのかがよりイメージができ、子供や家族のより質の高い、効果的な退院支援に繋がるというふうに考え、本研究に取り組みたいと思いました。

調査方法としましては、血液腫瘍性疾患に罹患して、化学療法を受けた学童期のお子さんを持つご家族が、退院後早期に抱く不安や困難さを明らかにしたいということで、聞き取り調査を行いたいというふうに思っております。選定する条件等は紙面上に記載してあるのですが、病棟の看護師、共同研究者の方に電子カルテから回答者の属性とあと子供が血液腫瘍性疾患に罹患した年齢、現在の子供の年齢、入院期間、外来日、あとは外来の主治医等の情報を取らせていただいて、そこで患者さんを選定していただきます。大学研究者の方は電子カルテは一切見ないというふうな形で選定をしていきます。選定後は病棟のスタッフと大学の共同研究者の方で説明をさせていただきたいと思っています。聞き取り調査の内容としましては、五つありまして、一つ目は、長い入院生活から退院が決まった時、お子さんと再び一緒に生活することに向けて、家族としてどのように準備をされてきましたか。二つ目に、退院が決まって、退院後の生活をいろいろイメージされたと思いますが、退院後の生活とイメージしていたことと異なったことはありましたか。あった場合はどのような事でしたか。三つ目、退院後の生活でイメージしていたことと異なったことが生じたとき、どのような対処をされましたか。四つ目に退院してから病氣とともに生活する中で気づいたことや、改めて気になったことはありますか。五つ目に、今四つ目にお伝えしたことについて看護師から退院前に支援がありましたか。あった場合はその支援の内容はいかがでしたか。実施時期はいかがでしたか。というような内容を聞き取り調査していきたいと思っております。内容としては以上になります。

(委員)はい、ありがとうございました。他機関の共同研究として、この研究で新たに情報を得るということで、同意説明文書を添付してある。県立看護大の方では実施許可通知が出ているような状況であります。この研究につきまして、ご質問とか、ご意見はいかがでしょうか。これは、対象がご家族であるので、お子さんの同意は取らないということではよかったですか。

(研究責任者)ご家族の方を対象としておりますので、説明のときにご家族の方だけに同意を得る。子供への説明というのは考えておりません。

(委員)子供が成人になっていった時に、親の同意だけでいいのでしょうか。子供の情報は取らないということでしたでしょうか。

(研究責任者)電子カルテから、いつごろ血液腫瘍性疾患だったという情報は得させていただく。それはお子さん自身の、うん。

(委員)お子さん自体の同意は必要ないとの判断ですか。わかりました。研究期間は、いつまででしたか。2025年の2月に研究会で報告するとあって、その後、26年の3月までに1年くらいの猶予がある。

(研究責任者)2026年の3月までを研究期間とするんですけども、今回は第一段階ということで。

(委員)この後に続く研究があるということですか。

(研究責任者)はい。その時にまた申請の方を出させていただこうと思っています。

(委員)25年までの研究期間で出してもらった方がいいかと思います。

(研究責任者)研究期間については、明確にさせていただきます。

(委員)一つ確認ですが、調査方法の中で、大学の研究者の先生が電子カルテを閲覧して患者を選定するとあるが、これは実習であれば同意書を取って学生さんが電子カルテを閲覧している。外部の研究者の方は電子カルテの閲覧はいいのでしょうか。

(研究責任者)電子カルテの閲覧を大学教員は致しません。現地の研究者が閲覧します。

(委員)現地の研究者がするのですね。わかりました。

(委員)先ほどの点だけ確認いただいて、承認としますが、この研究に関しまして反対の方は挙手をお願いいたします。承認とします。

新たに試料・情報を取得する観察研究

⑥調剤薬局に来局される患者のQOLと患者属性との関連性に関する調査

アイン薬局 舘 吉比古

結果、承認する

(委員)調剤薬局に来局される患者のQOLと患者属性との関連性に関する調査について、お願いします。

(研究分担者)分担研究者の田中です。まず2枚目の研究者リストですけれども、こちらの研究責任者の館薬剤師は、アイン薬局まつなみ健康増進クリニック店で勤務しているんですけれども、地域薬学ケア専門薬剤師の研修生として岐阜市民病院で研修をしております。この研究の目的ですが、近年、医薬分業の質が求められており、調剤薬局薬剤師の業務が対物業務から対人業務へ移り変わっている。その中で患者のQOL向上に貢献することは薬局薬剤師として重要な目標の一つであると考えられる。しかしながら、QOLは一般に主観的なものであり一律の評価が難しいものであり、さまざまな要因がQOLに影響していると考えられている。病院で薬物治療を行う患者に対してQOLを調査して薬物治療に応用している報告はあるが、調剤薬局で薬を受け取り、薬物治療を行う患者のQOLについては報告が少ないことから、どのような要因が患者のQOLに影響を及ぼしているのか、この研究で調査するということになります。これらの因子が明らかとなることで、調剤薬局の薬剤師が患者のQOLを改善するため施策を検討することが可能となります。こちらの書類の真ん中の後ろから、同意説明文書がありまして、その次にアンケート用紙があります。このアンケート自体は薬局に来局される方を対象にアンケート調査を行いまして、岐阜市民病院ではこれらの仮名加工情報で個人情報が変わらなくした情報を受け取って解析ですとか研究の支援として、学会発表、論文投稿の研究支援を行います。こちらの研究に関しましては、一番後ろにありますけれども、アインホールディングスさんの倫理委員会では承認されていますが、当院でも支援という形で携わっていいか。という研究申請になります。

(委員)こちらの研究につきまして何かご意見とかご質問よろしいでしょうか。

(委員)同意書の中にございますが、この説明は誰がするのか。担当者から説明を受けて、私は同意しますという用紙になってます。この担当者ってのは具体的にどういう方になりますか。

(研究分担者)4ページの患者さんにお渡しする説明文書の4ページにあります、14の実施体制に記載のある、アイン薬局まつなみ健康増進クリニック店においては館薬剤師が行いますし、お隣のアイン薬局松波総合病院店におきましてはこの田村薬剤師が説明する予定でおります。

(委員)アンケートは調剤をしていただいている間にするのですか。

(研究分担者)処方箋を受け付けて、調剤でお待ちしている時間に同意を得られた方にアンケートをやっていただく。

(委員)その時間にやるので、特別な時間は要しません。と説明がありますが、説明を受けて同意をするという時間はかかるわけだが、この機会にやるのか、別の機会にやるのか。

(研究分担者)同時にやります。

(委員)そんなに時間はかかりませんよ。と説明があるんですけど説明を受けて同意するっていう時間はかかるわけですね。そういうことであれば、それぞれ理解できますが特に余分な時間かかりませんよって書いてあるので、いつ誰が説明することになるのか気になった。もう一点、4ページに、この研究によって得られた検体・情報はとあるが、情報が得られるのはよくわかるけど、検体っていうのはどういう意味ですか。

(研究分担者)実際に患者さんから採取する物質、液体だと思います。今回のこれは誤りで、検体はいただきません。情報のみになります。

(委員)そうですね。削除でいいですね。

(研究分担者)他よろしいですか。当院の患者さんっていうわけではない。先ほどもあったように、研究は当院で支援をするということなので、当院での承認を必要としている。この研究に対して反対の方は挙手をお願いします。こちらも承認とします。

審査不要の研究

⑦独歩で来院後100分に心停止した劇症型A群溶血性連鎖球菌の一部検例

病理診断科 児玉 大地

結果、承認する

(委員)病理の児玉先生の方から、独歩で来院後100分に心停止した劇症型A群溶血性連鎖球菌の一部検例ということで、こちらは、本来は審議不要の研究に当たるんですけども、学会発表に当たって審議をお願いしたいということで、研究概要につきましては3枚目につけていただいておりますが、こういう経過の患者さんの症例において、論文と学会発表を予定している。特に問題はないかと思しますので、承認とします。

**2) 終了(中止・中断)報告 (3 件)
了承する**

既存の試料・情報のみを用いる観察研究

⑧同種造血幹細胞移植患者におけるPosaconazoleの有効性と安全性の検討

輸血部 北川 順一

既存の試料・情報のみを用いる観察研究

⑨消化管ストーマ造設患者の退院後の日常生活に関する実態調査

看護部 西垣 裕子

既存の試料・情報のみを用いる観察研究

⑩心臓リンパ腫の後方視的検討

輸血部 北川 順一

**3) 実施状況報告 (1 件)
結果、承認する**

既存の試料・情報のみを用いる観察研究

⑪フルダラビン・シタラビン・メルファラン・低線量全身照射による前処置を用いた同種移植におけるメルファランの薬物動態と移植後早期合併症との関連の探索的研究(SCT MEL AUC20)

小児科 篠田 邦大

**4) 重篤な有害事象に関する報告 (0 件)
報告なし**

**5) 安全性情報等に関する報告 (0 件)
報告なし**

6) 変更申請 (1 件)
結果、承認する

既存の試料・情報のみを用いる観察研究

⑫ミダゾラム口腔用液の使用症例の検討

小児科 日置 幸信
〔研究計画書の変更〕

7) 重大な逸脱等に関する報告 (0 件)
報告なし

8) 再審査申請 (0 件)
報告なし

9) その他の報告 (1 件)
了承する

新たに試料・情報を取得する観察研究

⑬フィネレノンによる糖尿病合併慢性腎臓病をもつ関節リウマチ患者における腎・肺・肝線維化抑制および各臓器障害の進行抑制の検討

〔6月新規申請(迅速審査にて中止済み)〕

総合診療膠原病内科藤岡 圭

B 病院長への許可申請・報告事項

1) 病院長への許可申請 (13 件)

特定臨床研究

⑭JCOG2203:食道胃接合部腺癌に対するDOS or FLOTを用いた術前化学療法のランダム化第II/III相試験 ver.1.2.0

[変更許可申請]

外科 奥村 直樹

特定臨床研究

⑮JCOG2301:化学療法が奏効した診断時切除不能cStage IVB/pStage IV胃癌に対するConversion surgeryの意義に関するランダム化比較第III相試験

[新規許可申請]

外科 奥村 直樹

侵襲を伴わない観察研究

⑯膵臓癌に伴う遠位非切除胆管閉塞に対する新型先端Taper型金属カバーステントの安全性と有用性を検討する多施設共同観察研究

[新規許可申請]

消化器内科 岩田 圭介

特定臨床研究

⑰20mm以下の膵充実性病変に対する超音波内視鏡ガイド下検体採取における25-gaugeと22-gauge先細スタイレット搭載Franseen形状針の比較

[新規許可申請]

消化器内科 岩田 圭介

特定臨床研究

⑱JCOG1404/WJOG8214Lにおけるオシメルチニブ・コホートの長期的転帰に関する観察研究(JCOG1404/WJOG8214L A2)

[新規許可申請]

呼吸器内科 吉田 勉

特定臨床研究

⑲新規診断小児急性前骨髄球性白血病における化学療法剤減量を目指した第II相臨床試験(AML-P17)

[変更許可申請]

小児科 篠田 邦大

既存の試料・情報のみを用いる観察研究

⑳青黛(もしくは青黛を含有している漢方薬)服用患者に対する診療体制構築に向けた多施設実態調査

[変更許可申請]

消化器内科 小木曾 富生

侵襲を伴う観察研究

㉑新生児・乳児期血友病A患者におけるエミズマブの安全性及び有効性を評価する多機関共同前向き観察研究

[変更許可申請]

小児科 神田 香織

特定臨床研究

㉒小児・AYA世代初回高リスク再発急性リンパ性白血病に対するイノツズマブオゾガマイシンとmini-hyper CVDによる寛解導入療法のII相試験

[新規許可申請]

小児科 篠田 邦大

特定臨床研究以外の臨床研究

㉓JCOG1509A2:JCOG1509「局所進行胃癌における術後補助化学療法に対する周術期化学療法の優越性を検証することを目的としたランダム化比較第III相試験」の附随研究全ゲノム解析に基づく局所進行胃癌に対する術前化学療法の有効性と安全性を評価するバイオマーカーの探索的研究

[変更許可申請]

外科 奥村 直樹

特定臨床研究

㉔わが国の小児がんサバイバーの健康・社会生活状況の実態解明に関する前向きコホート研究

[変更許可申請]

小児科 篠田 邦大

特定臨床研究

㉕MLL遺伝子再構成陽性乳児急性リンパ性白血病に対するクロファラビン併用化学療法の有効性と安全性の検討をする多施設共同第II相試験およびMLL遺伝子再構成陰性乳児急性リンパ性白血病に対する探索的研究

[変更許可申請]

小児科 篠田 邦大

特定臨床研究

㉖小児AYA世代再発急性リンパ性白血病の治療実態と予後把握に関する前方視的観察研究

[新規許可申請]

小児科 篠田 邦大

2) 病院長への報告

(3 件)

特定臨床研究

⑳小児・AYA・成人に発症したB前駆細胞型急性リンパ性白血病に対する多剤併用化学療法が多施設共同第III相臨床試験(ALL-B19)

[他機関の有害事象報告]

小児科

篠田 邦大

特定臨床研究

㉑小児、AYA世代および成人T細胞性急性リンパ性白血病に対する多施設共同後期第II相臨床試験(ALL-T19)

[他機関の有害事象報告]

小児科

篠田 邦大

特定臨床研究

㉒MLL遺伝子再構成陽性乳児急性リンパ性白血病に対するクロファラビン併用化学療法の有効性と安全性の検討をする多施設共同第II相試験およびMLL遺伝子再構成陰性乳児急性リンパ性白血病に対する探索的研究

[定期報告]

小児科

篠田 邦大